

昇

ふとふふ。お赤い山のは一何何を指したりの
あ、よしとせが病を火と云のかつは、くはえ
に憑かりた詞を~~振~~えふい。市街の籠帯の中心
は人の籠は決して記憶に止まるものにはふい
あふりある。止まるのはたに閃影にけりある
。

~~~~~~~~~

斯く  
お他新の現象とありた。大都會の~~耳を籠耳~~  
すのたりのお籠り声、眼を~~籠~~あすりのお籠り何  
洗々喫煙車に山捲して心を籠りう馬鹿げた種

是——其等のうちに近代人は昔の人に~~幻~~影也

異教と思われぬに~~憑~~憑の~~夢~~夢を~~現~~現象に見出  
した。今では~~幻~~影を~~憑~~憑りたに~~現~~現象するかの

努力を要する。昔生れ異物の既に~~幻~~影とす  
る人~~間~~也~~身~~身象の~~幻~~影に~~憑~~憑りておの。昔~~憑~~憑と也

影とか物~~凭~~凭しし終り~~行~~行し~~中~~中い、お~~知~~知新は~~実~~実  
生~~流~~流の~~形~~形産~~の~~の~~あ~~あ、~~我~~我々の~~想~~想像力の~~形~~形産~~の~~の

あるか、~~山~~山う~~区~~区別~~が~~がつかふし~~あ~~あれた。人~~籠~~籠は  
都會に~~在~~在る~~憑~~憑憑の~~生~~生を~~憑~~憑り、~~変~~変化の~~奇~~奇術を~~憑~~憑

つた。~~近~~近代人の~~神~~神籠は~~元~~元来~~に~~に~~憑~~憑る~~に~~に~~あ~~あ

26文

26

昇曙夢